

「中学生の昼食の考え方（方針）」について

本市では、中学生の昼食については、従来から家庭からの弁当持参を基本としておりますが、弁当を持参しない生徒が約 2 割いるなどの状況があり、早急に解決しなければならない課題として取り組んでいます。平成 14 年 6 月に教育委員会事務局内に設置した「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」において、中学生の昼食のあり方について、総合的に議論が行われ、平成 19 年 3 月 29 日に、別添のとおり報告がまとめられました。

この報告は、平成 12 年 1 月から実施している「中学生の昼食事業の試行」などの弁当を持参しない生徒対策の状況や、本年 2 月にとりまとめられた『『中学生の昼食の考え方』のまとめに向けての昼食事業等の中間集約について』、その後実施された給食実施校を含む市内抽出の中学校への調査、校長ヒヤリングの結果などを踏まえ、今後の本市の中学生の昼食の考え方を取りまとめたものであります。

また、本報告は「大阪市地対財特法期限後の事業等の調査・監理委員会のまとめ」を受け、昨年 11 月に公表した「地対財特法期限後の関連事業等の総点検調査結果に基く事業等の見直し等について（方針）」に沿ったものでもあります。

この報告では、中学生の昼食に関する現状分析とともに、「学校教育と昼食、食育について」、「家庭弁当について」、「保護者負担の公平性について」、「弁当を持参していない生徒対策について」及び「中学校給食について」という 5 つの観点から検討を行い、現時点における中学生の昼食の考え方のまとめとして、基本的な方向性を示した内容となっております。

教育委員会は、本報告を受け、検討を加えた結果、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるという食育の推進の重要性、心身とも個人差が大きくなる時期である中学生の多様性（嗜好、食事量など）を踏まえるとともに、家庭からの弁当持参が学校や家庭において定着し中学生の心身の健全な育成に寄与しているといった教育的な意義を勘案し、一方、弁当を持参しない生徒にも配慮し、次のとおり、「中学生の昼食の考え方（方針）」を定めるものとします。

記

1. 基本的な方向性

- (1) 中学生の昼食については、家庭からの弁当持参を基本とする。
- (2) 家庭からの弁当を持参できない場合も安心して登校できるように、全ての生徒が利用可能な、衛生面・安全面等を念頭に置き、栄養価に配慮した昼食を提供するための対策を行う。

など

『中学生の昼食の考え方』のまとめ（研究会からの報告）の概要

＜経過＞

- ・本市中学校では、昼食は家庭からの弁当持参を基本としているが、何らかの理由で弁当を持参していない生徒が約2割いることから、健康面を考慮し、栄養価等に配慮した昼食の選択肢を増やすため、平成12年1月から市内2校で、昼食事業の試行を実施している。
- ・中学生の昼食のあり方については、平成14年6月に、「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」（以下「研究会」という）を設置し、総合的に検討を行ってきた。
- ・平成18年9月からは、公費を投入しない新たな選択肢として、市内3校でランチサポート事業を実施し、昼食事業の試行と利用状況等の比較・検討を行っている。
- ・一方、平成18年8月には、「大阪市地対財特法期限後の事業等の調査・監理委員会」から中学校給食についての指摘を受け、同年11月の市の方針では、平成18年度末までに考え方をまとめることとしている。
- ・平成19年2月には、昼食事業の試行校2校とランチサポート校3校への調査や、利用状況、校長・業者ヒアリングの結果などを踏まえて、「中間集約」をとりまとめた。
- ・その後、市内の中学校を抽出して、給食実施校とあわせ、生徒・保護者に対し調査を行うとともに、給食実施校には校長ヒアリングを行った。

＜検討内容＞

- ・中学校における昼食は成長過程にある中学生にとって、身体の健全な育成の為に非常に重要であり、栄養バランス、安全面などに配慮された昼食が、生徒の多様性（嗜好、食事量など）を考慮して、提供されることが望ましいといえる。
- ・家庭弁当について、保護者は「栄養バランス」「おいしさ」「安全」「量やカロリー」に気を使い、「子どもの好みや体調に応じられる」ことや、「子どもとのコミュニケーション」が図れることなど、様々な意義を感じていることがうかがえる。
- ・中学校においては、家庭弁当についての保護者への啓発や、生徒への食指導を行うなど、弁当持参は学校生活の基本となっており、学校や家庭が家庭弁当を通じてそれぞれの役割を果たすことにより、中学生の心身の健全な育成に寄与していると考えられる。
- ・本市の中学校における家庭弁当の持参率は約8割であり、家庭弁当を基本とした昼食は、学校生活においても家庭においても定着しているといえる。
- ・一方、家庭からの弁当を持参しない生徒が約2割いるほか、基本的に弁当を持参している家庭でも、保護者の体調不良などの理由で弁当を持参することが出来ない場合があり、弁当持参しない生徒対策の必要性が高いことが示されている。
- ・保護者負担の公平性については、弁当持参の家庭では、食材料費を始め、昼食に関する経費や準備などの全てを負担しているが、給食の場合は、食材料費を給食費として

保護者負担している一方、人件費や光熱水費については公費を投入しているなど、学校単位で見れば、昼食提供の方法によって、公費負担に具体的な違いがある状態となっている。

- ・ また、給食・昼食事業の試行・売店など、学校によって昼食提供の方法が異なることは、中学生の昼食に関する保護者負担の選択の公平性が担保されていない状態を招いているといえる。昼食に関する選択の機会を、全ての中学校において同一であることが望ましい。
- ・ 全ての中学校での給食実施によって、保護者負担の公平性を担保することは選択肢の1つであるが、家庭弁当を基本とした昼食が定着している現状や、多額の費用負担が予想される経費面をも考え合わせると、昼食の考え方の転換を行う必要性は少ないと考えられ、家庭弁当を中心としながら弁当を持参しない生徒対策の充実などに取り組むことが望ましいと考える。
- ・ なお、給食実施校では、家庭においても学校においても、日常的な家庭からの弁当持参の習慣・体制がないなど、学校給食がない場合は、弁当持参率が低くなることが予想され、その他の学校と比べ、家庭弁当の代替手段の必要性がかなり高いことは明らかである。現在の中学校給食については、代替手段等とあわせて今後の取扱いを考慮していかなければならない。
- ・ 中学校においては、全ての生徒が栄養面、教育面などから望ましい昼食をとることが大事であり、子どもを取り巻く環境、食をめぐる課題等が変化し、望ましい昼食のあり方も変化していくことを踏まえ、中学生のより良い食生活に結びつくような昼食のあり方について、総合的に判断し、昼食対策を確立していくことが望ましいと考える。

＜基本的方向性＞

- ・ 本市の中学校では、家庭からの弁当持参を基本とする。
- ・ また、家庭からの弁当を持参できない場合も安心して登校できるように、全ての生徒が利用可能な、衛生面・安全面等を念頭に置き、栄養価に配慮した昼食を提供することが望ましい。
- ・ 一部の中学校で学校給食を実施している状況は、保護者負担の公平性の観点からも望ましくなく、将来にわたり継続することは適当ではないと考える。給食実施校については、現有の厨房施設を活用した民間による食堂経営などについても検討されたい。

＜今後の進め方＞

- ・ 平成19年度に具体的な方法を検討し、議会での議論等を踏まえたうえで準備作業を行い、平成20年度から、モデル実施を行うなど、中学生の昼食に関する総合的な施策を、順次、実施すべきと考える。

「中学生の昼食の考え方」のまとめ

平成19年3月29日

「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」

目 次

1. 本市の「中学生の昼食」の検討に関する経過	1 頁
2. 本市の中学校での昼食について	2 頁
(1) 中学生と食事について	
(2) 本市の中学校の昼食の現況	
(3) 追加調査の結果について	
3. 「中学生の昼食」に関する検討	7 頁
(1) 学校教育と昼食、食育について	
(2) 家庭弁当について	
(3) 保護者負担の公平性について	
(4) 弁当を持参していない生徒対策について	
(5) 中学校給食について	
4. 「中学生の昼食の考え方」のまとめ	14 頁
5. 参考資料	18 頁
(1) 追加調査結果	
(2) 「中学生の昼食の考え方」のまとめに向けての昼食事業の 試行等の中間集約について（概要）	
(3) 大阪市地対財特法期限後の事業等の調査・監理委員会まとめ	
(4) 地対財特法期限後の関連事業等の総点検調査結果に基づく 事業等の見直し等について（方針）	

1. 本市の「中学生の昼食」の検討に関する経過

成長期にある中学生にとって、食事は大変重要なものであるとともに、心身とも個人差が大きくなる時期にあり、基本的な生活習慣の形成や栄養摂取などについて、家庭の役割が大切であることから、本市中学校では、昼食については家庭からの弁当持参を基本としている。

また、12校においては、それぞれの実施地域における当時の食生活の実態などから、個別に学校給食を実施してきている。

本市では、昼食を弁当持参としている学校では、何らかの理由で弁当を持参しない生徒が約2割いることがわかっており、校内外の売店やコンビニ等でパン、ジュースなどを購入して食べている状況があることから、その対策の検討に取り組んできた。

平成12年1月からは、弁当を持参していない約2割の生徒への対策として、健康面を考慮し、栄養価等に配慮した昼食の選択肢を増やすため、市内2校で、昼食事業の試行を実施している。

平成14年6月には、「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」（以下「研究会」という）を設置し、中学生の昼食のあり方をテーマの1つとし、総合的に検討してきた。

この間、昼食事業の試行の利用状況の把握や事業内容の改善に取り組みながら、平成17年7月には、市内24校を抽出して、生徒・保護者に対する調査を実施し、昼食等に関する実態把握を行うなど、データの収集・分析を行うとともに、平成18年9月からは、民間が持つノウハウを取り入れることで、弁当販売に対する補助などの公費を投入しない新たな選択肢として、ランチサポート事業を順次、市内3校で実施してきた。

一方、平成18年8月には、「大阪市地対財特法期限後の事業等の調査・監理委員会」から中学校給食についての指摘を受け、同年11月に市の方針をとりまとめたところである。

その中では、「研究会」において、中学生の昼食のあり方について、保護者負担はもとより教育的効果の観点から精力的に検討を行うなど、総合的に議論し、中間集約を行うとともに、議会での議論を踏まえ、12校での給食のあり方を含め、今年度末までに考え方をまとめることとしている。

平成18年12月には、昼食事業の試行校2校とランチサポート校3校の計5校の全生徒・保護者を対象として、学校での昼食の状況や弁当販売への評価等を把握するための調査を実施しており、利用状況や校長・業者ヒアリングの結果なども踏まえて、平成19年2月に「中間集約」をとりまとめたところである。

その後、市内の中学校を抽出して、給食実施校とあわせ、昼食に関する要望や家庭からの弁当を持参していない生徒の状況等に関して、生徒・保護者に対し調査を行うとともに、給食実施校には校長ヒアリングを行った。

本報告書は、これらの経過を踏まえ、「研究会」において総合的に議論を行い、中学生の昼食の考え方をまとめたものである。

2. 本市の中学校での昼食について

(1) 中学生と食事について

近年、様々な社会環境の変化の中で、家庭環境の変容、食生活の多様化、食品の安全性に関する諸課題など、子どもの食をめぐる状況は大きく変化している。子どもたちに対しては、地域や社会を挙げた食育、生活習慣病の予防、健全な食生活や、楽しく食卓を囲む機会の確保、食品の安全性の確保、伝統ある食文化の継承などが必要とされている。

中学生に対する学校教育においても、生徒が健康の大切さを実感し、生涯にわたって自己の健康に配慮した食生活を営めるよう、望ましい食習慣の形成については、中学校において健康・安全面に関する指導の一環として指導する必要があるとともに、家庭においても取り組むべき重要な課題であり、家庭との連携を図るとともに、家庭の中でも話し合えるような題材を設定していくことが大切である。

また、中学生は、小学生と異なり、個人差が大きくなり、体格や運動量、食事量、嗜好などが多様化するとともに、思春期を迎え、大人の体型への成長には重要となる栄養摂取が、生活範囲の拡大など、生活習慣や個人の健康課題の認識に大きく左右される時期である。健康の保持増進には、年齢、生活環境に応じた食事、運動、休養、及び睡眠の調和の取れた生活が必要であり、食事の量や質の偏り、運動不足や、生活習慣の乱れは、健康を損なう原因となる。

成長過程にある中学生にとって、食事は、自身の保健衛生面、学校教育面、家庭・社会生活などの面から、重要な位置を占めているといえる。

(2) 本市の中学校の昼食の現況

中学生の昼食については、家庭からの弁当持参を基本としているが、この間の経過から、学校給食の実施校があり、また、昼食事業の試行校、ランチサポート校がある。さらに、学校によっては、校内に売店等（主にパン販売）があり、生徒に昼食購入の機会を提供している。

家庭からの弁当持参率は約8割であり、家庭弁当以外の生徒は、通学途上にコンビニ、あるいは昼食時に校内の売店等で、パンやおにぎりを購入して昼食としていることが多い。

学校給食を実施している12校では、校内の給食調理室において、本市給食調理員が調理した給食を、食堂または教室で喫食している。

なお、昼食事業の試行校、ランチサポート校については、「中間集約」でまとめている。

中学校の校内での昼食提供の状況は、次のとおりとなっている（平成18年度）。

・校内に売店のみがある中学校	6 2 校	うち、パン販売59校（牛乳・おにぎりを販売しているところもある）、牛乳販売のみ3校。
・給食実施校	1 2 校	
・校内に業者食堂がある中学校	7 校	（うち2校はパン販売あり）
・ランチサポート校	3 校	（うち2校はパン販売あり）
・昼食事業の試行校	2 校	（うち1校はパン販売あり）
・郊外校（舎食など）	2 校	
・その他の中学校	4 1 校	（パンの移動販売があるところもある）
（ 計	1 2 9 校	）

なお、中学生の昼食に係る本市の負担経費（平成17年度決算額）としては、概ね次のとおりとなっている。

・中学校給食に係る関係経費	
給食実施経費	5 5 8 百万円
就学援助費（給食費）	7 3 百万円
生活保護費（教育扶助(給食費)他局執行、概算）	1 4 百万円
・昼食事業の試行に係る経費	7 百万円

また、昼食（1食）にかかる本人の負担経費の目安としては、次のとおりである。

・家庭弁当	2 0 0 ～ 3 0 0 円程度
・給食	2 2 5 円（給食費）
・校内売店	4 0 0 円～5 0 0 円が多い。
・校外店	4 0 0 円～5 0 0 円が多い。
・ランチサポート	3 0 0 円～5 0 0 円で提供。
・昼食事業の試行	3 0 0 円で提供。

（3）追加調査の結果について

昼食事業の試行、ランチサポートの状況等については、「中間集約」としてとりまとめたが、その他の昼食状況についてより詳しく把握するために、市内の中学校23校を抽出した「昼食に関する調査」と、給食実施中学校を対象とした「食生活に関する調査」を、それぞれ2年生とその保護者を対象として、平成19年2月に実施し、昼食に関する要望や家庭からの弁当を持参していない生徒の状況等に関して、調査（以下「追加調査」という）を行っており、その結果を集約すると次のとおりである。

①昼食に関する調査（生徒）の集約

- ・学校での昼食について、弁当を持参した日数は、調査期間の1週間(5日間)の内、毎日持参した生徒が50.4%、3～4日持参が37.5%となっており、週の内、半分以上持参は

87.9%となる。2日以下では6.7%で、1日も持参しなかった生徒は4.4%であった。

- ・弁当持参率は、生徒が調査期間中に出席した延べ日数から算出すると81.7%である。
- ・家から弁当を持参しなかった日の昼食内容は、「パン」37.0%、「おにぎり」20.9%であり、合わせると6割近い。麺類3.2%、「おかず」「ご飯とおかず」は3.9%である。「飲み物」が29.1%あるが、他のものとあわせての購入と考えられる。なお、「何も食べない」が1.2%あった。
- ・購入場所については、23校の全体集計では「校外のコンビニ等」が48.2%と最も多く、次に「校内の売店」が36.1%となっている。ただし、「校内の売店」、「食堂」の有無別に、（調査23校の内訳は、「売店あり」13校（パンの移動販売がある2校を含む）、「食堂あり」1校、「売店・食堂あり」2校、「その他」7校である）利用率を見ると、「校外のコンビニ等」の利用は、「売店あり」校では38.2%、「食堂あり」校26.7%、「売店・食堂あり」校5.1%、「その他」校92.5%である。「校内の売店」の利用は、「売店あり」校53.5%、「売店・食堂あり」校47.5%である。「食堂」の利用は、「食堂あり」校64.4%、「売店・食堂あり」校35.6%となっている。

校内に売店・食堂がある場合、その利用率が5～8割と高く、コンビニ等の利用は3割程度であり、売店・食堂両方ある場合は5.1%にとどまっている。

- ・弁当を持参しなかった理由については「弁当をつくる人の都合が悪かった」が49.1%と約半数を占め、次に「家の弁当以外のものが食べたかった」が22.2%となっている。「朝早く登校したため、弁当が無かった」も5.4%あり、保護者の都合と生徒の希望とで8割近くとなっている。
 - ・平成18年4月以降で、1回でも学校で昼食を食べなかったことがあるかどうかの質問では、13.0%の生徒が「食べなかったことがある」と答え、その理由は、「食べなくなかった」が30.0%、「弁当がなくパンも買えなかった」が23.6%であり、その他自由記述として、「体調不良」(13.2%)「弁当を忘れた」(9.7%)をあげたものもいた。
 - ・学校での昼食の希望（上位二つを質問）とその理由としては、第1位にあげたものを見ると「家庭からの弁当」が一番多く48.1%（その理由としては「栄養バランス」「好みにあった選択」が多い）、次に「校内の食堂で麺類や定食」20.5%（「好みに合った選択」、「手軽・便利」）、「給食」14.6%（「弁当を作らなくてよい・もってこなくてよい」、「栄養バランス」）となっている。
- 第2位にあげたものでは、「校内食堂」20.6%、「校内売店」19.3%、「通学途中にコンビニ等」16.3%となっている。
- 第1位と第2位の合計をみると、「家庭からの弁当」約3割、「校内食堂」約2割となっており、「給食」約1.5割、「校内売店」約1.3割と続いている。「コンビニ等」は約1割にとどまっている。

②昼食に関する調査（保護者）の集約

- ・弁当持参しない場合の昼食については、「通学途中に購入」が44.2%で最も多く、「校内の購買部等で購入」37.1%となっている。なお、自由記述として、「前日や登校前に親が買って置く」「毎日弁当である」との回答もそれぞれ5%程度みられた。

- ・弁当を持たせなかった理由では、「体調不良」が28.0%と最も多く、「仕事等で朝、時間がない」16.7%、「食材の用意ができない」14.7%とあわせ、生徒調査での保護者の都合にほぼ相当する割合であると考えられる。「子どもの希望」も24.4%で、生徒調査とほぼ同じである。
- ・弁当をつくるときに気を使う点では、「栄養バランス」23.9%、「おいしさ」21.8%の順であり、次いで「安全」「量やカロリー」となっている。
- ・弁当への、調理済み食品・半調理品を使う程度は、「全く取り入れていない」のは2.9%で、頻度の違いはあるが、ほとんどの家庭で何らかの食品を使用している。最もよく使われている食品は、「冷凍食品」で31.6%、次いで「レトルト食品」が18.7%、「出来合いの惣菜類」が15.0%となっており、その他、自家製の常備食品を使うという回答も、一定数見られた。
- ・弁当づくりの意義については、「好みや体調に応じられる」「つくるのは当然」がほぼ同数で、それぞれ24.0%、23.1%となっており、「栄養バランス」「生徒とのコミュニケーション」が続いている。
- ・弁当づくりに対する負担については、約6割の保護者が「ときどき負担を感じる」とし、「負担は感じない」「かなり負担を感じる」保護者が、それぞれ約2割となっている。また、負担になるのは「献立を考えること」が25.7%と最も多く、次いで「朝、忙しいときの調理」が23.0%、「早起きの必要」19.5%、「食材調達」13.9%となっている。
- ・学校での昼食の希望では、「給食」が47.6%と一番多く、次いで「弁当持参基本で弁当販売があればよい」21.0%、「今のまま弁当持参がよい」が16.9%で、弁当を基本とすることを望む意見は合わせて37.9%となっている。「校内食堂」を望む意見は11.2%あった。その他自由記述として、弁当を基本として、週に1～2回の給食実施や、食堂利用を希望する意見が見られた。

保護者は、献立や早起きなど、時々弁当づくりに対する負担を感じながらも、子どもの体調や栄養に気を配ることができるなどの意義を感じ、毎日弁当をつくっていることがうかがえる。

なお、一番大きい負担とされている「献立を考えること」など、本市として可能な家庭弁当に対する支援策のあり方について、今後、検討を要するといえる。

③食生活に関する調査（生徒）の集約

- ・給食の量について、「全部又はほぼ残さず食べる」が46.7%、「少量残すことがある」39.7%であるが、「かなり残すことがある」も13.1%である。
- ・給食の良い点としては、最も多かったのが「栄養バランス」で全体に占める割合として約26%、「何を食べるか考えなくてよい」「衛生的で安全」「温かいものが食べられる」がそれぞれ10～12%程度となっている。
- ・学校での昼食の希望（上位二つを質問）とその理由としては、第1位にあげたのを見ると「給食」が一番多く57%（その理由としては「栄養バランス」「弁当を作らなくてよい・持ってこなくてよい」が多い）、次に「校内の売店で弁当やパン」17.2%（「好み

に合った選択」が5割以上)、「家庭弁当」9.0%（「好みに合った選択」「おいしい」）となっている。

第2位にあげたものでは、「校内の食堂」28.3%、「校内の売店」23.8%、「家からの弁当」16.3%となっている。

第1位と第2位の合計をみると、「給食」約3割、「校内売店」約2割となっており、「校内食堂」「家庭弁当」と続いている。

④食生活に関する調査（保護者）の集約

- ・ 毎日の給食内容など子どもとの会話について、「毎日会話する」「よく会話する」の合計52.8%、「ほとんどしない」「まったくしない」の合計45.3%で、それぞれ半数程度となっている。
- ・ 校外学習時等の弁当については、「家で弁当を作る」が94.2%となっている。
- ・ 弁当づくりの意義についての質問では、「子どもの好み、体調に応じられる」が29.9%、「つくるのは当然」が20.7%、「子どもとのコミュニケーション」が18.3%、「栄養バランス」が14.8%、「子どもに感謝の気持ちを持たせられる」7.1%であった。その他「メニューが難しい」「子どもが喜ぶ」などの意見もあった。
- ・ 学校での昼食の希望では、89.6%が「給食」を望んでおり、次に「食堂等校内での購入」が4.0%、「家庭からの弁当」は2.5%であった。

現在、給食を実施していることから、引き続き給食を望む保護者の意見が圧倒的に多い結果となっている。

3. 「中学生の昼食」に関する検討

(1) 学校教育と昼食、食育について

成長期にある生徒にとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成にあたって大きな影響を与える重要な要素である。このため、成長期にある生徒への食に関する指導は、健やかに生きるための基礎を培うことを主な目的としている。

子どもの食に関する環境については、家庭が重要な役割を有していることは言うまでもないが、食生活の多様化が進む中で、食に関する情報の氾濫や安全性の問題など家庭において十分な知識に基づく指導を行うことが困難な状況もある。そうした状況を踏まえると、子どもの食生活については、学校、家庭、地域が連携して次代を担う生徒の食に関する環境の充実に努めることが必要である。

中学校の学習指導要領の解説（特別活動編）では、「食習慣の形成」について次のように記載されている。

- ・規則正しく調和のとれた食生活は、健康の保持増進の基本であり、近年の生徒等の食生活の変化が、生活習慣病など食に起因する新たな健康課題を生起していることから、望ましい食習慣の形成は極めて重要な課題となっている。
- ・中学生の時期は、男女ともに心身の発育・発達が著しいことから、自己の健康を管理し改善していく資質や能力を育成するため、自分の食生活を見直し、自ら改善して、生涯を通じた望ましい食習慣の形成と食事を通して好ましい人間関係や明るい社交性が育まれるよう指導する必要がある。

学校では、教育委員会の指導のもと、学習指導要領に則り、昼食指導を行っており、昼食、家庭弁当の意義等について、次のように整理できる。

- ・心身ともに大きく成長する中学生にとって、昼食時間は大きな楽しみの時間であるとともに、打ち解けた雰囲気の中で仲間作りが進む、教育場面である。
- ・中学校では、各教室で担任教員とともに昼食を食べることが多く、その際、教員が生徒の健康状況や、心の変化を把握することが出来るよい機会であると考えられる。教員にとっては生徒の日常の出来事や家庭の様子等、何気ない会話から一人ひとりの生徒に対する理解を深める機会にもなっている。
- ・家庭弁当には、栄養面の配慮のみならず、親の愛情を味わうこともひとつの目的で、親と子どもの絆を深めるものである。子どもたちが保護者の愛情あふれる昼食を食べるということは、中学生の時期には非常に大切なことである。
- ・各学校では、年度当初を始め、様々な機会を通して保護者に出来るだけ昼食を用意していただくよう、周知をしている。

このような意義等をふまえ、今後とも、中学生にとって、昼食が楽しく、有意義な時間となるよう、また、生徒相互、生徒と教員との信頼感を深めるなど、望ましい教育環境となるよう努めることが必要である。

「昼食に関する調査」では、昼食に何も食べなかった生徒が少数ではあるがおり、弁当を持参しなかった場合の昼食では、「パン」、「おにぎり」を食べている生徒は合わせて6割近く、「おかず」や「ご飯とおかず」を食べている生徒はわずかである。各学校では、生徒の状況をかんがみ、配慮が必要な生徒に対しては、生徒の食生活の実態を把握し、保護者と協力しながら、適切な食生活が送れるよう指導を継続している。

次に、食育の観点については、生徒が食について計画的に学ぶことができるよう、各学校において食に関する指導の目標をたて、特別活動や教科等における全体的な計画が策定されることが必要であり、積極的に促進しているところである。具体的には、文部科学省より中学校1年生用に配布されている食生活学習教材を活用し、特別活動等で「朝食の大切さ」「ファーストフード店・コンビニエンスストア」「スポーツと栄養」の指導、また、家庭科の調理実習での協力して日常食の調理を行う体験、保健体育の時間での健康と栄養のバランスについての学習、総合的な学習の時間における食の歴史と文化に触れた多文化理解の学習、修学旅行など泊を伴う行事における農業体験の取組み等、各校様々に工夫している。

今後はさらに、食育推進の観点から、生涯にわたって自己の健康に配慮した食生活を営めるよう、健康と食習慣、食事のマナーと楽しさなども含めた、個々の状況に応じた多面的な指導が必要である。

(2) 家庭弁当について

家庭弁当の平均像については、「中間集約」では、費用は200円から300円が約5割、作る時間は20~40分が約6割で、作る人は母親が圧倒的に多い(9割以上)という結果であった。

「追加調査」から、本市の家庭弁当の持参率については約8割であり、週に半分以上持参した生徒は約9割、毎日持参が約5割である。昼食に関する調査(生徒)では、学校における昼食の希望として、家庭からの弁当を食べたいとする回答が最も多かった。

また、望ましい昼食として給食を選択した保護者は半数近くいるが、弁当を基本と考える保護者も4割近かったこと、弁当を持たせることに「子どもの好みや体調にに応じられる」「つくるのは当然」というように、家庭の役割を感じている保護者の意見が多く、「中間集約」においても、「子どもとのコミュニケーション」や「手づくり」をあげた意見が多いなど、保護者は様々な意義を感じていることがうかがえる。さらに、家庭弁当については、「栄養バランス」「おいしさ」「安全」「量やカロリー」が勘案されるなど、保護者は、献立や早起きなど、時々弁当づくりに対する負担を感じながらも、愛情をもって弁当を作っていることがうかがえる。

中学校においては、家庭弁当についての保護者への啓発や、生徒への食指導を行うなど、弁当持参は学校生活の基本となっており、学校や家庭が家庭弁当を通じてそれぞれの役割を果たすことにより、中学生の心身の健全な育成に寄与していると考えられる。家庭弁当を基本とした昼食は、学校生活においても家庭においても定着しているといえ

る。

一方、現実として、家庭からの弁当を持参しない生徒が約2割いるほか、基本的に弁当を持参している家庭でも、保護者の体調不良などの理由で弁当を持参することが出来ない場合が4割程度あると考えられるなど、弁当持参しない生徒対策の必要性が高いことが改めて示されているとともに、「中間集約」において、家庭の事情などにより、家庭弁当以外の利用回数が多い生徒や、少数ではあるが、ほぼ毎日校内での昼食弁当を利用している生徒があることが分かっていることに留意する必要がある。

なお、献立を考えることなどの保護者の負担感を踏まえた支援策や、その為の栄養面等の実態把握などが今後の課題といえる。

(3) 保護者負担の公平性について

現在、同じ市立中学校の生徒でありながら、家庭弁当、給食、昼食弁当（昼食事業の試行、ランチサポートで販売している弁当をいう）、コンビニ弁当やパンなど、学校や生徒によって、具体的に昼食として食べている内容が異なっているのは、2-（2）で述べた学校における昼食提供の方法の違いが大きく、加えて家庭の状況、生徒の嗜好などを反映していると考えられる。

弁当持参の家庭では、食材料費を始め、昼食に関する経費や準備などの全てを負担しているが、給食の場合は、食材料費を給食費として保護者負担している一方、人件費や光熱水費については公費を投入しているなど、学校単位で見れば、昼食提供の方法によって、公費負担に具体的な違いがある状態となっている。

給食実施校以外の学校では、保護者が昼食に関してどのような負担をするかは、最終的には、保護者の選択に任されている部分が大いといえるが、保護者にとって進学する中学校は校区によって決められたものであり、給食・昼食事業の試行・売店など、学校によって昼食提供の方法が異なることは、中学生の昼食に関する保護者負担の選択の公平性が担保されていない状態を招いているといえる。

「調査・監理委員会」で指摘を受けている保護者負担の公平性を担保するには、保護者がどのような負担をするのかという、昼食に関する選択の機会を、全ての中学校において同一であることが望ましい。中学生の昼食の考え方をまとめるにあたっては、そのような仕組み・制度が望まれる。

なお、個人への公的支援としては、給食費は生活保護・就学援助の対象となっているが、家庭弁当の経費については、生活全般に含まれていると理解され、特別の補助制度はない。

(4) 弁当を持参していない生徒対策について

①「中間集約」について

弁当を持参していない生徒の校内での昼食の選択肢としては、現在、昼食事業の試行、ランチサポート、校内売店等があり、また、校内に選択肢がない学校も約3割あるなど、

学校によって差異があるのが現状である。

昼食事業の試行校2校と、ランチサポート校3校の計5校の状況や評価等については、「中間集約」としてまとめたが、その内容は、次のとおりとなっている。

- ・昼食事業の試行では、利用率は17年度が10.1%と、家庭からの弁当を持参していない生徒の半分程度が利用しており、購入したことのある生徒が約7割にのぼることから、一つの選択肢としての効果が上がっている。

本来の趣旨である栄養バランスに配慮した弁当の利用率が低く、カレーやラーメンなどの当日予約のメニューのほうに9割を占めることのほか、全市展開には公費負担が大きいなどの課題がある。

- ・ランチサポートでは、3つの方式で実施しているが、利用率が10.7%、1.4%、0.2%と異なるなど、方式によって利用状況などに大きな違いがある。昼食事業の試行とほぼ同じ水準の利用率の確保ができた例もあったが、事業全体として予約方法、献立内容・温度、価格、業者確保等の課題がある。

(※各々の事業の利用率については「別表」のとおり。)

- ・特に保護者からは、昼食事業の試行・ランチサポートともに、家庭からの弁当を持参しない場合の昼食としての期待がうかがえるなど支持が高い。

②栄養面からの考察

昼食事業の試行校・ランチサポート校ともに、家庭弁当よりも利用回数が多い生徒があり、メニューへの配慮が必要である、としたことから、栄養面からの考察として、各業者の一週間の昼食弁当の献立を、文部科学省の定める学校給食の栄養所要量基準（以下「基準」という）と比較すると、以下のとおりとなった。

- ・全体の評価として、いずれの弁当もカルシウム・鉄分・食物繊維が「基準」を下回っている。
- ・それ以外の栄養素で見ると、昼食事業の試行のA弁当がいずれも概ね90%を越える充足率となっており、献立における使用食材が多く、また野菜も多く使われている。
- ・次いでランチサポートの弁当調理販売業者による昼食弁当が、ビタミン群の一部を除いて他の栄養素はほぼ充足しており、献立における使用食材、野菜とも多く使われている。
- ・昼食事業の試行のC弁当と、ランチサポートの持ち帰り弁当業者がそれに続いているが、たんぱく質やビタミン群がやや不足気味で、前段の弁当と比較すると、使用食材も少なく野菜類の使用が少ないことが認められる。
- ・ランチサポートの弁当販売業者は、全体的に栄養価の充足率を下回っており、使用食材、野菜類等も少なく、量的にも少ない。なお、価格が400円以下の弁当としていることも一因と考えられる。
- ・いずれの弁当でも、喫食時に牛乳の飲用はしていないが、共通して不足しているカルシウムやビタミン群などは、牛乳を付けることで数値が大きく改善する。

昼食弁当については、継続利用を想定し、栄養価など献立水準の確保が課題であるといえる。

③今後のあり方について

家庭からの弁当持参を基本とする場合、弁当を持参していない生徒に対して、望ましい昼食が提供できることが必要である。「中間集約」から、昼食事業の試行については、当該学校においては昼食の方法として定着している一方、全市拡大には献立面や費用などの課題があり、ランチサポートについては、利用率の高い例はあるが、現在の枠組みのままでは献立面や業者確保の面等で事業の展開力に欠けることがいえる。

昼食を提供する事業の全市展開を図っていく場合には、今後、販売手続きの簡素化を行うなど、業者の負担を軽減し、生徒も利用しやすくすることによって、販売数を確保することで業者の参入を促す仕組みを工夫するとともに、一定の条件を示した上で業者の公募を行うなど、参入業者の確保を図る必要がある。

また、栄養面からの考察や昼食弁当の利用状況から、提供する弁当の栄養面等献立水準の確保が必要である。現在、昼食事業の試行においては、衛生面・栄養面のチェックが出来ていることがA弁当の栄養面からの好評価につながっているといえるが、ランチサポートについては、衛生面のチェックのみとなっており、献立内容については業者の提示した選択肢の中からの選択にとどまっている。衛生面・安全面・栄養面などの水準を確保するための対策に関しては、生徒に直接還元されるものであり、これらの観点からの事業内容の充実のためにも、教育委員会が責任をもって、積極的にその役割を果たすことが求められる。

また、昼食弁当については、メニューの多様性を始め、利用にあたっては当日予約を基本とするなど、生徒にとって利用し易いシステムとするなどの条件を備えていなければ実効性ある対策といえないことに留意する必要がある。

さらに、家庭の事情などにより、日常的に弁当を持参することが難しい家庭のみならず、弁当を持参している家庭でも、当日になって何らかの理由で弁当を持参することが出来ない場合があることから、全市的に保護者が安心できる、家庭弁当がない場合の有効な代替策として、全ての生徒が利用できるよう、機会が均等に開かれていることが必要である。

(5) 中学校給食実施校について

学校給食法の第4条では「義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならない。」とあり、法制定時の文部省通達において、小学校等の設置者の任務について「法においては、学校給食の実施を小学校等の設置者に義務付けてはいないが、その教育上の重要性にかんがみ小学校等の設置者は、法第4条の規定に基き学校給食がその本来の目的に従って開設され、運営され、継続されることに努め、法第6条に規定する財政的負担の方途を講ずることが望ましい。」とされており、公立学校における給食の実施については、学校の設置者である地方公共団体の判断とされている。本市においては、現在、12校で中学校給食を実施している。

なお、中学校給食の全国的な状況としては、約7割の中学校で給食を実施しているが、地域によって差があり、大阪府下では約1割である。

現在の本市における中学校給食については、教育委員会として個別に実施してきた経過と、規則正しい生活習慣、栄養に配慮した食の提供、週3回米飯給食の実施などにより、健康の増進に一定の成果があるなど、子どもたちの食生活に寄与し、当該学校生活において既に定着していることが調査からもうかがえるが、「調査・監理委員会」から強く指摘されている保護者負担の公平性の観点からは、一部中学校での給食実施は、全市的な昼食対策を推進していくための理念とは、そぐわない状態となっており、2－（3）で述べたように、保護者が昼食に関しどのような負担をするのかという、選択の機会を、全ての中学校において同一であるようにするための検討が必要である。

中学生の昼食の考え方を検討するにあたり、「追加調査」の実施と合わせて、給食実施校の校長に対しヒアリングを行ったが、その結果をまとめると、次のとおりである。

給食の果たしている役割や成果としては、子どもたちの健康維持や生活のリズムを整えたり心のゆとりにつながっているとの意見、弁当をつくれな家庭は、給食があることによって安心して学校生活が営めるとの意見、栄養バランスや、健康についての意識を生徒自身が持つようになるとの意見、クラスのまとまりに大きな役割を果たしているなどの意見があった。

校外学習などの学校行事日での弁当持参の状況については、9割以上持参していると回答した学校が5校、6～7割が6校、5割が1校、である。年1回なのでがんばって作る、保護者は弁当を作り子どもに持たせる意識はある、という意見もあった。

弁当を持参していない理由などについては、仕事の関係など保護者の作る時間の都合、保護者の無関心など姿勢の問題が大きい、などが挙げられていた。

昼食のあり方についての意見としては、義務教育段階では学校給食は必要であるとする意見、給食がなくなれば生活指導上の課題が多くなるとの意見、食生活は保護者の役目・弁当を作る意義があるとする意見、現実として給食がないと子どもの昼食が保障できないとの意見、食堂があればよいとする意見、保護者は給食があることで頼ってしまうとの意見、弁当もあり日によって給食といった選択制もあるとの意見、弁当販売について、いじめにならないような配慮を求める意見、などがあった。

なお、全体の傾向として、給食の成果や必要性に関する意見が多いが、その理由としては、集約すると教育的な意義のほか「現実的に昼食が保障されていることの意義が大きい」とする意見が強い。家庭弁当の教育的効果についての意見もあり、同じ給食実施校でも、昼食のあり方や家庭弁当についての意見は、幅広く多様であるといえる。

また、「追加調査」での、昼食のあり方に関する集約結果を見ると、生徒は、弁当や給食など現在の昼食方法への支持が最も多いが、それに次いで、校内売店や食堂等への希望が多くなっている。第1位に選んだ場合の、理由のみに着目して整理すると、「好みに合った選択」「栄養バランス」「手軽・便利」の順となっており、生徒の望ましい昼食を選択する際の条件のウェイトをあらわしているといえる。

一方で保護者の意見を見ると、給食実施校では、現状どおりの給食を望む意見が約9割となっているのに対し、市内抽出による中学校では、給食を望む意見は47.6%であり、

家庭からの弁当を基本とする意見が37.9%あるなど、昼食のあり方に関しては様々な意見が見られるところである。

中学校給食については、「市民の声」などで実施校の拡大を望む意見もあり、全ての中学校での給食実施によって保護者負担の公平性を担保することは、選択肢の1つであるが、本市の現状としては、家庭弁当について高い持参率を維持しており、保護者としても弁当を持参させることに家庭の役割や意義を感じている方が多く、生徒も望んでいるなど、弁当が家庭において、実質的にも定着しているといえる。学校においても弁当持参を中心とした取り組みが進んでおり、家庭からの弁当持参を基本としながらも、学校給食法の第2条にある「日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うこと。」などの食指導に関する目標の趣旨については、中学校教育の中で、十分対応できると考えられるなど、教育委員会として昼食の考え方の転換を行う必要性は少ないと考えられる。さらに、多額の費用負担が予想されるなど経費面をも考え合わせると、その方向での推進は実現困難であると言わざるを得ず、むしろ家庭弁当を中心としながら、弁当を持参しない生徒対策の充実などに取り組むことが望ましいと考える。

なお、子どもの食をめぐる状況は、時代とともに大きく変化してきており、今後も、中学校給食の実施に関しては、諸状況を注視しながら、研究課題として認識しておくことが適当である。

なお、給食実施校では、家庭においても学校においても、日常的な家庭からの弁当持参の習慣・体制がないなど、学校給食がない場合は、弁当持参率が低くなることが予想され、その他の学校と比べ、家庭弁当の代替手段の必要性がかなり高いことは明らかである。現在の中学校給食については、代替手段等とあわせて今後の取扱いを考慮していかなければならないが、その場合、例えば、現有の厨房施設を活用した民間による食堂経営の手法を取り入れ、効率的な昼食提供を行うことを検討することなどが考えられる。

4. 「中学生の昼食の考え方」のまとめ

中学校における昼食は成長過程にある中学生にとって、身体の健全な育成の為に非常に重要であり、栄養バランス、安全面などに配慮された昼食が、生徒の多様性（嗜好、食事量など）を考慮して、提供されることが望ましいといえる。

また、午後の授業への身体の準備、生徒指導面、あるいはクラスの仲間と食事をとることで、食指導の身近な題材となるなどの点からも、全ての生徒が校内で適切な昼食をとることは、学校教育を円滑に進めるうえでの、望ましい条件となっている。

これまでの「研究会」での検討において、本市における中学生の昼食に関して、弁当持参の現状、昼食事業の試行・ランチサポートのそれぞれに対する評価のほか、昼食の教育環境や食育の充実、家庭弁当についての意義や役割の他、内容に関する実態把握や支援策などの必要性、保護者の昼食に関する選択の公平性、弁当を持参しない生徒対策についてはその必要性和、業者確保・献立水準の確保と行政の役割、利用しやすいシステム、全ての生徒への機会均等などの今後の展開にあたっての課題、現時点における全中学校での給食実施の困難性と、給食実施校についての代替策をあわせた今後の慎重な取扱いについての検討の必要性など、整理を行ってきた。

中学校においては、昼食の手段にかかわらず、全ての生徒が栄養面、教育面などから望ましい昼食をとることが大事なのであり、その為には、市教委、学校、家庭が、それぞれの役割を果たす必要がある。時代の変化に応じて、子どもを取り巻く環境、食をめぐる課題等が変化し、望ましい昼食のあり方や、三者の役割分担も変化していくことを踏まえ、中学生のより良い食生活に結びつくような昼食のあり方について、それぞれの時代に応じて、総合的に判断し、昼食対策を確立していくことが望ましいと考える。

「研究会」としては、以上のことを踏まえ、本市の中学生の昼食については、家庭弁当を基本とする現在の考え方を維持するとともに、家庭弁当がない場合の昼食提供についての対策を確立するなど、昼食に関する総合的な施策を実施することにより、行政としての役割を果たしていくことが必要であると考え、以下のとおり基本的な方向性を示すこととする。

〔基本的方向性〕

本市の中学校では、家庭からの弁当持参を基本とする。

また、家庭からの弁当を持参できない場合も安心して登校できるように、全ての生徒が利用可能な、衛生面・安全面等を念頭に置き、栄養価に配慮した昼食を提供することが望ましい。

一部の中学校で学校給食を実施している状況は、保護者負担の公平性の観点からも望ましくなく、将来にわたり継続することは適当ではないと考える。給食実施校については、現有の厨房施設を活用した民間による食堂経営などについても検討されたい。

なお、今後の進め方としては、平成19年度に具体的な方法を検討し、議会での議論等を踏まえたうえで準備作業を行い、平成20年度から、モデル実施を行うなど、中学生の昼食に関する総合的な施策を、順次、実施すべきと考える。

別 表

昼食事業の試行 年度別利用状況

年 度	学校名	実施日数(日)	販売数(食)	1日平均(食)	率(%)
平成11年度 (12年1月～3月分)	S1中学校	35	1,356	38.7	5.5
	S2中学校	42	1,341	31.9	6.9
	集計	77	2,697	35.0	6.0
平成12年度	S1中学校	145	6,939	47.9	6.3
	S2中学校	149	5,323	35.7	8.5
	集計	294	12,262	41.7	7.1
平成13年度	S1中学校	143	7,544	52.8	6.7
	S2中学校	153	5,301	34.6	8.3
	集計	296	12,845	43.4	7.2
平成14年度	S1中学校	143	10,309	72.1	9.0
	S2中学校	152	4,197	27.6	6.8
	集計	295	14,506	49.2	8.1
平成15年度	S1中学校	146	10,746	73.6	9.3
	S2中学校	154	5,297	34.4	8.6
	集計	300	16,043	53.5	9.0
平成16年度	S1中学校	144	11,821	82.1	10.1
	S2中学校	148	5,783	39.1	10.2
	集計	292	17,604	60.3	10.1
平成17年度	S1中学校	142	11,530	81.2	9.9
	S2中学校	153	6,993	45.7	10.9
	集計	295	18,523	62.8	10.1
平成18年度	S1中学校	144	11,362	78.9	9.0
	S2中学校	157	8,189	52.2	11.9
	集計	301	19,551	65.0	9.9

昼食事業試行・ランチサポート弁当販売数(平成18年9月～平成19年3月分)

事業名		昼食事業試行			ランチサポート		
業者		弁当配送業者			持ち帰り 弁当業者	弁当調理業者	弁当販売業者
学校		S1中学校	S2中学校	2校計	L1中学校	L2中学校	L3中学校
9月	総販売数	857	696	1,553	531	116	—
	実施日数	12	14	26	14	11	—
10月	総販売数	1,446	959	2,405	614	111	—
	実施日数	17	18	35	17	19	—
11月	総販売数	1,058	754	1,812	691	121	2
	実施日数	15	16	31	18	17	3
12月	総販売数	701	565	1,266	376	95	4
	実施日数	8	10	18	10	9	11
1月	総販売数	1,092	776	1,868	507	100	2
	実施日数	14	16	30	16	16	16
2月	総販売数	1,413	930	2,343	631	122	2
	実施日数	19	18	37	16	16	19
3月	総販売数	713	607	1,320	562	71	0
	実施日数	7	12	19	14	9	11
9～3月計	総販売数	7,280	5,287	12,567	3,912	736	10
	実施日数	92	104	196	105	97	60
生徒数(人)		872	438	1,310	351	551	378
1日平均(食)		79.1	50.8	64.1	37.3	7.6	0.2
利用率(%)		9.1	11.6	9.8	10.6	1.4	0.1
試行2校18.4月～19.3月 利用率		9.9%					

* 昼食事業試行の2学期の弁当販売開始時期は、9月11日。

* ランチサポートの弁当販売開始時期は、L1中 9月11日、L2中 9月14日。

* ランチサポートL3中の弁当販売開始時期は、11月27日。

5. 参 考 資 料

(1) 追加調査結果

- ・ 中学生の昼食に関するアンケート（生徒）
- ・ 中学生の昼食に関するアンケート（保護者）
- ・ 中学生の食生活に関するアンケート（生徒）
- ・ 中学生の食生活に関するアンケート（保護者）

<概要>

1. 対象生徒数・回収率

	昼食に関するアンケート			食生活に関するアンケート		
	対象生徒数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)	対象生徒数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
生徒	3,224	2,818	87.4%	1,203	1,018	84.6%
保護者	3,224	2,278	70.7%	1,203	676	56.2%
計	6,448	5,096		2,406	1,694	

2. 調査対象

- (1) 昼食に関するアンケート 給食実施校を除く市立中学校のうち 23 校を抽出し、2 年生全生徒とその保護者
- (2) 食生活に関するアンケート 給食実施校 12 校の 2 年生全生徒とその保護者

3. 調査時期 平成 19 年 2 月

4. 調査方法 (生徒用) 直接配布・回収 (保護者用) 生徒を通じた間接配布・回収

中学生の昼食に関するアンケート(生徒)

問1 学校での昼食はどのようにしていますか (2/5～2/9の5日間において)

ア. 弁当を持参した日数

	5日	4日	3日	2日	1日	0日	無回答	合 計
件 数	1,421	748	310	112	76	124	27	2,818
割 合	50.4%	26.5%	11.0%	4.0%	2.7%	4.4%	1.0%	100.0%
弁当持参率	81.7%	11,327日／13,857日 (弁当持参率: 弁当持参した延べ日数／調査期間中の出席延べ日数)						

※出席日数

	5日	4日	3日	2日	1日	0日	無回答	合 計
人 数	2,695	67	31	8	5	2	10	2,818
割 合	95.6%	2.4%	1.1%	0.3%	0.2%	0.1%	0.4%	100.0%

イ. 5日間のうち、家から弁当を持参しなかった日があった場合の、その日の昼食内容と購入場所

A. 《昼食内容》

		件 数	割 合
①パン(サンドイッチ等を含む)		1,039	37.0%
②おにぎり		588	20.9%
③麺類		89	3.2%
④おかず		37	1.3%
⑤ごはんとおかずの弁当		73	2.6%
⑥デザート		39	1.4%
⑦飲み物		818	29.1%
⑧何も食べない		33	1.2%
⑨その他	記入あり	24	0.9%
	記入なし	21	0.7%
無回答		46	1.6%
合 計		2,807	100.0%

B. 《購入した場所》

		件 数	割 合
①校内の売店 （購買部）		525	36.1%
②校外のコンビニや店		701	48.2%
③自動販売機		21	1.4%
④食堂		118	8.1%
⑤ そ の 他	記入あり	13	0.9%
	記入なし	12	0.8%
無回答		65	4.5%
合 計		1,455	100.0%

購入した場所 (校内の売店等の有無別状況)

件数		売店・ 食堂あり	食堂あり	売店あり	その他 (売店等 なし)	合計
①校内の売店		56	1	468		525
②校外のコンビニや店		6	27	334	334	701
③自動販売機		4	1	12	4	21
④食堂		42	65	9	2	118
⑤そ の他	記入あり	1	0	9	3	13
	記入なし	1	1	9	1	12
無回答		8	6	34	17	65
合 計		118	101	875	361	1,455
校数(校)		2	1	13	7	23

割合(%)	売店・食堂あり	食堂あり	売店あり	その他(売店等なし)	合計
①校内の売店	47.5	1.0	53.5	0.0	36.1
②校外のコンビニや店	5.1	26.7	38.2	92.5	48.2
③自動販売機	3.4	1.0	1.4	1.1	1.4
④食堂	35.6	64.4	1.0	0.6	8.1
⑤その他	記入あり 記入なし	0.8 0.8	0.0 1.0	0.8 0.3	0.9 0.8
無回答	6.8	5.9	3.9	4.7	4.5
合 計	100	100	100	100	100

ウ. 5日間のうち、家から弁当を持参しなかった場合、その理由

⑦その他内訳



問2 昨年4月以降で、1回でも学校で昼食を食べなかった時の有無

(学校行事・テスト期間中等で食べないときは除く)

ア.

イ. ア. ①あるの場合、その理由

⑤その他記入ありの内訳

→

問3 学校での昼食はどのような方法がよいか。上位2つまで選んでください。またその理由。

第 1 位				た好み に合っ	ス栄 養バ ラン	るで温 かい状 態	手軽・ 便利	おい しい	作らな くてよ い・持 ってこ な	らお 金がか か	そ の 他	計		
	件数	割合												
①家から弁当を持参			1,312	48.1%	件数	190	239	2	111	159	8	116	325	1,150
					割合	16.5%	20.8%	0.2%	9.7%	13.8%	0.7%	10.1%	28.3%	100.0%
②校内の売店(購買部)で 弁当やパン等を購入			191	7.0%	件数	24			81	5	15	1	41	167
					割合	14.4%	0.0%	0.0%	48.5%	3.0%	9.0%	0.6%	24.6%	100.0%
③通学途中にコンビニ 等で購入			109	4.0%	件数	48			10	4	5		18	85
					割合	56.5%	0.0%	0.0%	11.8%	4.7%	5.9%	0.0%	21.2%	100.0%
④校内で、予約注文できる ランチがあれば購入			124	4.5%	件数	15	7	6	22	8	19		37	114
					割合	13.2%	6.1%	5.3%	19.3%	7.0%	16.7%	0.0%	32.5%	100.0%
⑤校内の食堂で麺類や 定食などを食べる			558	20.5%	件数	117	9	65	71	26	70	2	158	518
					割合	22.6%	1.7%	12.5%	13.7%	5.0%	13.5%	0.4%	30.5%	100.0%
⑥給食			397	14.6%	件数	15	111	27	37	18	115	6	53	382
					割合	3.9%	29.1%	7.1%	9.7%	4.7%	30.1%	1.6%	13.9%	100.0%
⑦ そ の 他	記入あり	14	0.5%	件数	4							8	12	
	記入なし	22	0.8%											
合 計			2,727	100.0%										

第 2 位				た好 選み に合 つ	ス栄 養バ ラン	るで 温か い状 態	手 軽・ 便 利	お い し い	く作 らな く・ 持っ てこ な	かお ら金 なが いか	そ の 他	計		
	件数	割合												
①家から弁当を持参			415	15.6%	件数	64	50	2	28	46	2	48	124	364
					割合	17.6%	13.7%	0.5%	7.7%	12.6%	0.5%	13.2%	34.1%	100.0%
②校内の売店(購買部)で 弁当やパン等を購入			512	19.3%	件数	74	4	1	162	24	43	9	114	431
					割合	17.2%	0.9%	0.2%	37.6%	5.6%	10.0%	2.1%	26.5%	100.0%
③通学途中にコンビニ 等で購入			434	16.3%	件数	144	2		90	30	11	5	87	369
					割合	39.0%	0.5%	0.0%	24.4%	8.1%	3.0%	1.4%	23.6%	100.0%
④校内で、予約注文できる ランチがあれば購入			285	10.7%	件数	33	9	7	71	16	33	3	70	242
					割合	13.6%	3.7%	2.9%	29.3%	6.6%	13.6%	1.2%	28.9%	100.0%
⑤校内の食堂で麺類や 定食などを食べる			547	20.6%	件数	112	24	41	77	20	43	7	163	487
					割合	23.0%	4.9%	8.4%	15.8%	4.1%	8.8%	1.4%	33.5%	100.0%
⑥給食			428	16.1%	件数	12	112	28	43	20	87	4	77	383
					割合	3.1%	29.2%	7.3%	11.2%	5.2%	22.7%	1.0%	20.1%	100.0%
⑦ その他	記入あり	11	0.4%	件数	5	2	1	3	1	2		18	32	
	記入なし	26	1.0%											
合 計			2,658	100.0%										

第1位、第2位計				好 み に 選	栄 養 バ ラ	温 かい 食 べ 状	利 手 軽 ・ 便	お い し い	作 ら な く ・ 持 っ て こ な い	か ら 金 な い か	そ の 他	計	
	件数	割合											
①家から弁当を持参	1,727	32.1%	件数	254	289	4	139	205	10	164	449	1,514	
			割合	16.8%	19.1%	0.3%	9.2%	13.5%	0.7%	10.8%	29.6%	100.0%	
②校内の売店(購買部)で 弁当やパン等を購入	703	13.0%	件数	98	4	1	243	29	58	10	155	598	
			割合	16.4%	0.7%	0.2%	40.6%	4.8%	9.7%	1.7%	25.9%	100.0%	
③通学途中にコンビニ 等で購入	543	10.1%	件数	192	2	0	100	34	16	5	105	454	
			割合	42.3%	0.5%	0.0%	22.0%	7.5%	3.5%	1.1%	23.1%	100.0%	
④校内で、予約注文できる ランチがあれば購入	409	7.6%	件数	48	16	13	93	24	52	3	107	356	
			割合	13.5%	4.5%	3.7%	26.1%	6.7%	14.6%	0.8%	30.1%	100.0%	
⑤校内の食堂で麺類や 定食などを食べる	1,105	20.5%	件数	229	33	106	148	46	113	9	321	1,005	
			割合	22.8%	3.3%	10.6%	14.7%	4.6%	11.2%	0.9%	31.9%	100.0%	
⑥給食	825	15.3%	件数	27	223	55	80	38	202	10	130	765	
			割合	3.5%	29.1%	7.2%	10.5%	5.0%	26.4%	1.3%	17.0%	100.0%	
⑦ その他	記入あり	25	0.5%	件数	9	2	1	3	1	2	0	26	44
	記入なし	48	0.9%										
合 計		5,385	100.0%										

中学生の昼食に関するアンケート(保護者)

問1 弁当以外の昼食内容について

	①	②	③	④	無回答	計
	通学途中に購入	校内購買等で	校内食堂で	その他		
件数	1007	845	139	267	20	2278
割合	44.2%	37.1%	6.1%	11.7%	0.9%	100.0%

④その他記入あり内容

	1	2	3	計
	前日、当日に親が買っておく	弁当以外ない(毎日弁当)	その他	
件数	96	135	23	254
割合	37.8%	53.1%	9.1%	100.0%

問2 弁当を持たせなかった理由(順位2まで)

		①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
		仕事等、朝時間がない	食材用意ができない	体調不良	こどもの希望	保護者の希望(たまに)	その他		
1位	件数	457	279	684	605	28	147	78	2278
	割合	20.1%	12.2%	30.0%	26.6%	1.2%	6.5%	3.4%	100.0%
2位	件数	302	389	593	505	88	132	269	2278
	割合	13.2%	17.1%	26.0%	22.2%	3.9%	5.8%	11.8%	100.0%
計	件数	759	668	1277	1110	116	279	347	4556
	割合	16.7%	14.7%	28.0%	24.4%	2.5%	6.1%	7.6%	100.0%

⑥その他記入あり内容

	1	2	計
	持っていくのを忘れた	その他	
件数	2	248	250
割合	0.8%	99.2%	100.0%

問3 弁当作成で気を使う点(順位3まで)

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答	計
		安全	おいしさ	栄養バランス	量やカロリー	見栄え	費用	食べ物の好き嫌い	その他		
1位	件数	655	478	725	133	48	58	149	13	19	2278
	割合	28.8%	21.0%	31.8%	5.8%	2.1%	2.6%	6.5%	0.6%	0.8%	100.0%
2位	件数	282	617	608	310	142	100	169	14	36	2278
	割合	12.4%	27.1%	26.7%	13.6%	6.2%	4.4%	7.4%	0.6%	1.6%	100.0%
3位	件数	269	393	303	356	385	196	282	25	69	2278
	割合	11.8%	17.3%	13.3%	15.6%	16.9%	8.6%	12.4%	1.1%	3.0%	100.0%
計	件数	1206	1488	1636	799	575	354	600	52	124	6834
	割合	17.6%	21.8%	23.9%	11.7%	8.4%	5.2%	8.8%	0.8%	1.8%	100.0%

⑧その他記入あり内容

	1	2	3	計
	残さず食べられる	便利で早い	その他	
件数	4	10	35	49
割合	8.2%	20.4%	71.4%	100.0%

問4 弁当での調理済み食品・半調理品の取り入れ程度

	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
	全く取り入れていない	少しだけ取り入れ	1／3程度取り入れ	半分程度取り入れ	2／3程度取り入れ	ほとんど取り入れ		
件数	65	741	540	585	212	119	16	2278
割合	2.9%	32.5%	23.7%	25.7%	9.3%	5.2%	0.7%	100.0%

問5 よく使う調理済み食品・半調理品

		①	②	③	④	⑤	無回答	計
		出来合いの惣菜類	レトルト食品	インスタント食品	冷凍食品	その他		
1位	件数	172	107	8	1883	61	47	2278
	割合	7.5%	4.7%	0.3%	82.7%	2.7%	2.1%	100.0%
2位	件数	509	799	126	221	109	514	2278
	割合	22.3%	35.1%	5.5%	9.7%	4.8%	22.6%	100.0%
3位	件数	344	369	313	58	145	1049	2278
	割合	15.1%	16.2%	13.7%	2.6%	6.4%	46.0%	100.0%
計	件数	1025	1275	447	2162	315	1610	6834
	割合	15.0%	18.7%	6.5%	31.6%	4.6%	23.6%	100.0%

④その他記入あり内容

	1	2	3	4	5	計
	加熱食肉製品、ウインナ等	自家製常備食品（前日作り置き）	缶詰、ビン詰め	使っていない	その他	
件数	37	107	17	48	67	276
割合	13.4%	38.8%	6.1%	17.4%	24.3%	100.0%

問6 弁当づくりについてどのように感じていますか（順位2位まで）

		①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
		好み・体調に 応じれる	子との コミュニケーション	栄養 バランス	子に感謝の 心を持たせ られる	つくるのは 当然	その他		
1位	件数	648	289	430	147	604	109	49	2276
	割合	28.5%	12.7%	18.9%	6.5%	26.5%	4.8%	2.1%	100.0%
2位	件数	444	359	347	278	448	139	261	2276
	割合	19.5%	15.8%	15.2%	12.2%	19.7%	6.1%	11.5%	100.0%
計	件数	1092	648	777	425	1052	248	310	4552
	割合	24.0%	14.2%	17.1%	9.3%	23.1%	5.5%	6.8%	100.0%

⑥その他記入あり内容

	1	2	3	4	5	6	計
	安い	安全性	メニュー が難しい	子どもが 喜ぶ	本人が 作る	その他	
件数	26	6	16	21	16	144	229
割合	11.3%	2.6%	7.0%	9.2%	7.0%	62.9%	100.0%

問7 弁当づくりに負担を感じますか

	①	②	③	無回答	計
	負担は 感じない	ときどき 感じる	かなり 負担		
件数	443	1415	388	30	2276
割合	19.5%	62.2%	17.0%	1.3%	100.0%

問8（問7で「負担」との回答について）具体内容（順位3位まで）

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答	計
		朝忙しい時の調理	献立を考へること	早起きの必要	食材調達（買い物）	弁当を残される	子の感謝の気持のなさ	その他		
1位	件数	622	605	356	100	19	25	64	12	1803
	割合	34.5%	33.6%	19.7%	5.5%	1.1%	1.4%	3.5%	0.7%	100.0%
2位	件数	375	526	352	293	36	42	55	124	1803
	割合	20.8%	29.2%	19.5%	16.3%	2.0%	2.3%	3.0%	6.9%	100.0%
3位	件数	245	261	345	359	66	134	92	301	1803
	割合	13.6%	14.5%	19.1%	19.9%	3.7%	7.4%	5.1%	16.7%	100.0%
計	件数	1242	1392	1053	752	121	201	211	437	5409
	割合	23.0%	25.7%	19.5%	13.9%	2.2%	3.7%	3.9%	8.1%	100.0%

⑧その他記入あり内容

	1	2	3	4	計
	体調が悪いとき	前夜に準備すること	夏場の安全性	その他	
件数	50	5	8	122	185
割合	27.1%	2.7%	4.3%	65.9%	100.0%

問9 中学生の昼食のあり方について、どのような形が望ましいと思いますか

	①	②	③	④	⑤	無回答	計
	今のまま弁当持参	弁当基本で弁当販売も	給食	校内食堂	その他		
件数	384	478	1085	256	53	22	2278
割合	16.9%	21.0%	47.6%	11.2%	2.3%	1.0%	100.0%

⑤その他記入あり内容

	1	2	計
	弁当が良いと思うが給食になればよい	その他	
件数	8	44	52
割合	15.4%	84.6%	100.0%

中学生の食生活に関するアンケート(生徒)

I 朝食について

問1 学校に行く日に、朝食を食べましたか？最近1週間(月～金の5日間)の状況について

	①毎日食べた	②ときどき食べた	③食べなかった	無回答	合 計
件 数	759	169	89	1	1018
割 合	74.6%	16.6%	8.7%	0.1%	100.0%

※朝食をときどき食べた日数

	4日	3日	2日	1日	無回答	合 計
人 数	29	56	36	11	37	169
割 合	17.2%	33.1%	21.3%	6.5%	21.9%	100.0%

問2 問1で、①毎日食べた、②ときどき食べたと回答された人に質問します。

日頃朝食でよくとる主食は何ですか？

	件 数	割 合
①ごはん	298	32.1%
②パン	553	59.6%
③その他 記入あり	66	7.1%
記入なし	7	0.8%
無回答	4	0.4%
合 計	928	100.0%

③その他内訳

	件 数	割 合
1. どちらも半分ずつ	36	54.6%
2. 給食の主食と違うほう	3	4.5%
3. ヨーグルト	6	9.1%
4. いろいろ	8	12.1%
5. その他	13	19.7%
合 計	66	100.0%

問3 問1で③食べなかったと答えた人に質問します。

朝食を食べなかった主な理由を1つ選んでください。

	件 数	割 合
①食欲がない	25	28.1%
②時間がない	34	38.2%
③食べない習慣	20	22.5%
④朝食が用意されていない	2	2.2%
⑤その他 記入あり	6	6.8%
記入なし	0	0.0%
無回答	2	2.2%
合 計	89	100.0%

II 昼食について

問4 給食を食べる量はどうか？

	件 数	割 合
①全部またはほぼ残さず食べる	476	46.7%
②少量残すことがある	404	39.7%
③かなり残すことがある	133	13.1%
無回答	5	0.5%
合 計	1,018	100.0%

問5 給食の良い点は何ですか。主なもの3つ

	件数	割合
①衛生的で安全	374	12.2%
②良い材料	164	5.4%
③栄養バランス	792	25.9%
④皆が同じものを食べられる	212	6.9%
⑤何を食べるか考えなくてもよい	381	12.5%
⑥温かいものが食べられる	325	10.6%
⑦好き嫌いがなくなる	119	3.9%
⑧安い	231	7.6%
⑨弁当はかさばる	253	8.3%
⑩その他 記入あり	64	2.1%
記入なし	11	0.4%
無回答	128	4.2%
合 計	3,054	100.0%

⑩その他内訳

	件 数	割 合
1. 弁当を作らなくてよい	14	21.9%
2. おいしい	23	35.9%
3. その他	27	42.2%
合 計	64	100.0%

問6 学校での昼食はどのような方法がよいと思いますか。上位2つまで選んでください。

第 1 位			理 由	1 好みに合った選 択	2 栄養バ ランス	3 温かい 状態で 食べら れる	4 手 軽・ 便 利	5 お い し い	6 作ら なくて よい 持っ てこ なく てよ い	7 お 金 が か か ら な い	8 そ の 他	合 計		
													件数	割合
①給食			572	57.0%	件数	7	134	20	98	30	113	36	97	535
					割合	1.3%	25.1%	3.8%	18.3%	5.6%	21.1%	6.7%	18.1%	100.0%
②家から弁当を持参			91	9.0%	件数	35	4		2	12		1	27	81
					割合	43.2%	5.0%	0.0%	2.5%	14.8%	0.0%	1.2%	33.3%	100.0%
③校内の売店で弁当やパン等を購入			173	17.2%	件数	87		1	13	3	3		49	156
					割合	55.8%	0.0%	0.7%	8.3%	1.9%	1.9%	0.0%	31.4%	100.0%
④通学途中にコンビニ等で購入			50	5.0%	件数	22		1	2	7	1	1	9	43
					割合	51.2%	0.0%	2.3%	4.7%	16.3%	2.3%	2.3%	20.9%	100.0%
⑤校内で、予約注文できるランチがあれば購入			25	2.5%	件数	8	1		3		2		8	22
					割合	36.4%	4.5%	0.0%	13.6%	0.0%	9.1%	0.0%	36.4%	100.0%
⑥校内の食堂で麺類や定食を食べる			79	7.9%	件数	35		1	4	3	2		26	71
					割合	49.3%	0.0%	1.4%	5.6%	4.3%	2.8%	0.0%	36.6%	100.0%
⑦その他	記入あり	5	0.5%	件数	3	2		1		2		5	13	
	記入なし	9	0.9%	割合	23.1%	15.4%	0.0%	7.7%	0.0%	15.4%	0.0%	38.4%	100.0%	
合 計			1,004	99.9%										

第 2 位			理 由	1 好みに合った選択	2 栄養バランス	3 温かい状態で食べられる	4 手軽・便利	5 おいしい	6 作らなくてよい 持ってこなくてよい	7 お金がかからない	8 その他	合 計
	件数	割合										
①給食	79	8.2%	件数	1	14	2	16	6	9	5	16	69
			割合	1.4%	20.3%	2.9%	23.2%	8.7%	13.0%	7.3%	23.2%	100.0%
②家から弁当を持参	158	16.3%	件数	56	11		7	18		12	35	139
			割合	40.3%	7.9%	0.0%	5.0%	13.0%	0.0%	8.6%	25.2%	100.0%
③校内の売店で弁当やパン等を購入	230	23.8%	件数	85	1	1	27	3	7	3	76	203
			割合	41.9%	0.5%	0.5%	13.3%	1.5%	3.4%	1.5%	37.4%	100.0%
④通学途中にコンビニ等で購入	115	11.9%	件数	53			10	3	2		35	103
			割合	51.5%	0.0%	0.0%	9.7%	2.9%	1.9%	0.0%	34.0%	100.0%
⑤校内で、予約注文できるランチがあれば購入	93	9.6%	件数	21	2		13	4	8	1	31	80
			割合	26.2%	2.5%	0.0%	16.2%	5.0%	10.0%	1.3%	38.8%	100.0%
⑥校内の食堂で麺類や定食を食べる	274	28.3%	件数	90	7	14	26	11	22	4	70	244
			割合	36.9%	2.9%	5.7%	10.7%	4.5%	9.0%	1.6%	28.7%	100.0%
⑦その他	記入あり	10	1.0%	件数	1	1		3	1		11	17
	記入なし	9	0.9%	割合	5.9%	5.9%	0.0%	17.6%	5.9%	0.0%	64.7%	100.0%
合 計		968	100.0%									

第1位、第2位の計				理由	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
	件数	割合			選好 みたに	ラ 栄 ン 養 ス バ	食 状 温 べ 態 か ら で い	便 手 利 軽 ・	い お い し	い く 作 て ら よ な	な か お 金 ら が	そ の 他	
①給食	651	33.0%	件数	8	148	22	114	36	122	41	113	604	
			割合	1.3%	24.5%	3.6%	18.9%	6.0%	20.2%	6.8%	18.7%	100.0%	
②家から弁当を持参	249	12.6%	件数	91	15	0	9	30	0	13	62	220	
			割合	41.4%	6.8%	0.0%	4.1%	13.6%	0.0%	5.9%	28.2%	100.0%	
③校内の売店で弁当やパン等を購入	403	20.4%	件数	172	1	2	40	6	10	3	125	359	
			割合	47.9%	0.3%	0.6%	11.1%	1.7%	2.8%	0.8%	34.8%	100.0%	
④通学途中にコンビニ等で購入	165	8.4%	件数	75	0	1	12	10	3	1	44	146	
			割合	51.4%	0.0%	0.7%	8.2%	6.8%	2.1%	0.7%	30.1%	100.0%	
⑤校内で、予約注文できるランチがあれば購入	118	6.0%	件数	29	3	0	16	4	10	1	39	102	
			割合	28.4%	3.0%	0.0%	15.7%	3.9%	9.8%	1.0%	38.2%	100.0%	
⑥校内の食堂で麺類や定食を食べる	353	17.9%	件数	125	7	15	30	14	24	4	96	315	
			割合	39.7%	2.2%	4.8%	9.5%	4.4%	7.6%	1.3%	30.5%	100.0%	
⑦その他	記入あり	15	0.8%	件数	4	3	0	4	1	2	0	16	30
	記入なし	18	0.9%	割合	13.3%	10.0%	0.0%	13.3%	3.3%	6.7%	0.0%	53.4%	100.0%
合 計		1,972	100.0%										

中学生の食生活に関するアンケート(保護者)

I 朝食について

問1 学校へ行く日に朝食を食べていますか

	①	②						③	無回答	計
	毎日	ときどき						食べない		
		1回	2回	3回	4回	未記入	計			
件数	558	2	17	19	14	11	63	40	15	676
割合	82.5%	0.3%	2.5%	2.8%	2.2%	1.6%	9.4%	5.9%	2.2%	100.0%

問2 一緒に朝食を食べていますか

	①	②								③	無回答	計
	毎日 一緒	ときどき一緒								一緒に 食べない		
		1回	2回	3回	4回	5回	6回	未記入	計			
件数	228	14	46	44	12	13	0	37	166	220	62	676
割合	33.7%	2.1%	6.8%	6.5%	1.8%	1.9%	0.0%	5.5%	24.6%	32.5%	9.2%	100.0%

問3 朝食で気を使う点(順位2まで)

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		無回答	計
		準備に要 する時間	子の好み	栄養 バランス	量	食材の質	食材の 値段	その他			
								記入あり	記入なし		
1位	件数	199	219	138	29	7	3	13	3	65	676
	割合	29.4%	32.4%	20.4%	4.3%	1.1%	0.5%	1.9%	0.4%	9.6%	100.0%
2位	件数	114	147	115	121	49	26	17	7	80	676
	割合	16.9%	21.8%	17.0%	17.9%	7.2%	3.9%	2.5%	1.0%	11.8%	100.0%
計	件数	313	366	253	150	56	29	30	10	145	1352
	割合	23.2%	27.1%	18.7%	11.1%	4.1%	2.2%	2.2%	0.7%	10.7%	100.0%

問4 (問1で「食べない」との回答について)子どもが朝食を食べない理由

	①	②	③	④	⑤		無回答	計
	食べる時間がない	朝は食欲がない	食べない習慣	朝食は作っていない	その他			
					記入あり	記入なし		
件数	22	7	5	3	2	0	1	40
割合	55.0%	17.5%	12.5%	7.5%	5.0%	0.0%	2.5%	100.0%

Ⅱ 昼食について

問5 毎日の給食内容などを会話されますか

	①	②	③	④	無回答	計
	毎日する	よくする	ほとんどしない	全くしない		
件数	32	325	269	37	13	676
割合	4.7%	48.1%	39.8%	5.5%	1.9%	100.0%

問6 校外学習時等の弁当をどうしていますか

	①	②	③	④		無回答	計
	家で弁当をつくる	店舗で弁当購入	店舗でパン購入	その他			
				記入あり	記入なし		
件数	637	14	7	3	1	14	676
割合	94.2%	2.1%	1.0%	0.5%	0.1%	2.1%	100.0%

問7 弁当づくりについてどのように感じていますか(順位2位まで)

		①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
		好み・体調に 応じれる	子とのコミュ ニケーション	栄養 バランス	子に感謝の 心を持たせら れる	つくるの は当然	その他		
1位	件数	298	106	81	27	119	24	21	676
	割合	44.1%	15.7%	12.0%	4.0%	17.6%	3.5%	3.1%	100.0%
2位	件数	106	141	119	69	161	29	51	676
	割合	15.7%	20.9%	17.6%	10.2%	23.8%	4.3%	7.5%	100.0%
計	件数	404	247	200	96	280	53	72	1352
	割合	29.9%	18.3%	14.8%	7.1%	20.7%	3.9%	5.3%	100.0%

⑥その他記入あり内容

	1	2	3	4	5	6	計
	安い	安全性	メニュー が難しい	子どもが 喜ぶ	本人が 作る	その他	
件数	0	1	13	4	1	26	45
割合	0.0%	2.2%	28.9%	8.9%	2.2%	57.8%	100.0%

問8 中学生の昼食のあり方について、どのような形が望ましいと思いますか

	①	②	③	④	⑤	無回答	計
	給食	家庭から 弁当持参	食堂等校内 での購入	校内注文の 弁当販売	その他		
件数	606	17	27	6	6	14	676
割合	89.6%	2.5%	4.0%	0.9%	0.9%	2.1%	100.0%

⑥その他記入あり内容

	1	2	計
	給食が良いが弁当を持 たせる日があっても良い	その他	
件数	2	4	6
割合	33.3%	66.7%	100.0%

「中学生の昼食の考え方」のまとめに向けての
昼食事業の試行等の中間集約について

（概 要）

平成１９年 ２月

「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」

目 次

1. 中間集約の趣旨	-----	2 頁
2. 調査の概要	-----	2 頁
3. 本市における中学生の昼食の状況と「昼食弁当」事業の中間集約 ---		3 頁
4. 項目別検討		
(1) 昼食の状況と弁当持参状況	-----	4 頁
(2) 昼食事業の試行	-----	5 頁
(3) ランチサポート	-----	6 頁
(4) その他	-----	8 頁

1. 中間集約の趣旨

本市中学校では、昼食は家庭からの弁当持参を基本としているが、何らかの理由で弁当を持参していない生徒が約2割いることから、健康面を考慮し、栄養価等に配慮した昼食の選択肢を増やすため、平成12年1月から市内2校で、昼食事業の試行を実施している。

中学生の昼食のあり方については、平成14年6月に、「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」（以下「研究会」という）を設置し、他都市の状況や、中学生の食生活の状況等を把握するためのアンケート調査を行うなど、総合的に検討を行ってきた。

平成18年9月からは、弁当販売に対する補助などの公費を投入しない新たな選択肢として、市内3校でランチサポートを実施し、昼食事業の試行と利用状況等の比較・検証を行っている。

「大阪市地対財特法期限後の事業等の調査・監理委員会」からの中学校給食についての指摘を受け、市の方針では、「研究会」において、保護者負担の公平性はもとより教育的効果の観点から精力的に検討を行うなど、総合的に議論し、中間集約を行うとともに、議会での議論を踏まえ、給食を実施している12校でのあり方を含め、今年度末までに考え方をまとめることとしている。

昼食事業の試行、ランチサポートのこれまでの利用状況等と併せて、事業を実施している計5校の生徒の昼食の状況や保護者の昼食に関する意識等を把握するために、アンケート調査を実施したほか、校長、業者へのヒアリングを実施し、「中間集約」としてとりまとめたものである。

2. 調査の概要

昼食事業の試行校2校と、平成18年9月以降に開始したランチサポート校3校の全生徒・保護者を対象に、調査を実施。

- ・調査期間 平成18年11月～12月
- ・調査項目 学校での昼食の状況（弁当持参率など）
昼食弁当の献立内容等について
昼食弁当の利用状況
校外の店での購入状況(生徒)
家庭の弁当について(保護者)

*昼食事業の試行・ランチサポート事業をあわせて、『昼食弁当』事業と称している。

	区分	対象者数(人)	回収数(人)	回収率(%)
昼食事業試行校 (2校)	生徒	1,310	1,200	91.6
	保護者	1,310	892	68.1
	計	2,620	2,092	79.8
ランチサポート校 (3校)	生徒	1,280	1,157	90.4
	保護者	1,280	837	65.4
	計	2,560	1,994	77.9
合 計		5,170	4,086	79.0

3. 本市における中学生の昼食の状況と「昼食弁当」事業の中間集約

(1) 昼食の状況と弁当持参状況の中間集約

- ・本市における中学生の昼食時の弁当持参については、この間、持参率は約8割で、ほぼ一定している。
- ・ほぼ毎日持参している生徒が約7割であり、日によって持参している生徒が約2割、ほとんど持参していない生徒が約1割と考えられる。
また、家庭からの弁当を持参していない約2割の生徒を「ほぼ毎日持参しているが、何らかの理由により持参しなかった生徒」と、「ほとんど毎日、弁当を持参していない生徒」に分けると、ほぼ1：1くらいの割合と考えられる。
- ・昼食に家庭からの弁当を食べたいと考えている生徒は6割程度である。
- ・家庭からの弁当を持参していない理由としては、「弁当が用意されていない」が多く、3割程度を占め、その他、「昼食弁当が好き」「朝が早い」などである。
- ・保護者の感じる弁当持参の意義は様々であるが、「子どもとのコミュニケーション」や「手作り」が多い。

(2) 試行事業の中間集約

- ・利用率は17年度は10.1%で、弁当を持参していない生徒の半分程度が利用していること、購入したことのある生徒は約7割あることから、1つの選択肢として効果はあがっている。
- ・本来の趣旨である栄養バランスに配慮した弁当の利用率が低く、カレーやラーメンなどの当日予約のメニューのほうが9割を占めることのほか、全市展開には公費負担が大きいなどの課題がある。
- ・試行実施による家庭からの弁当の持参への影響は、補完という役割の範囲内であると考えられる。
- ・生徒にも好評であるが、保護者の方が、より家庭弁当のない場合の昼食としての期待が高いと考えられる。
- ・家庭弁当よりも利用回数が多い生徒があり、メニューへの配慮が必要である。

(3) ランチサポート事業の中間集約

- ・ランチサポート事業は、3つの方式で実施しているが、各方式により利用状況などに大きな違いがある。
- ・「持ち帰り弁当業者」による実施では、利用率などが試行校とほぼ同じであるなど、家庭からの弁当を持参していない生徒対策として、1つの選択肢として効果をあげている。
- ・ランチサポート事業全体として、予約方法、献立内容・温度、価格、学校選択や業者の確保などが、課題である。
また、利用率の向上には、予約などの手続きの簡素化が望ましい一方、家庭弁当よりも利用回数が多い生徒があり、メニューへの配慮が必要である。

4. 項目別検討

(1) 昼食の状況と弁当持参状況

①弁当持参の状況

- ・本市における中学生の昼食時の弁当持参については、この間、持参率は約8割で、ほぼ一定している。
- ・ほぼ毎日持参している生徒が約7割であり、日によって持参している生徒が約2割、ほとんど持参していない生徒が約1割と考えられる。
また、家庭からの弁当を持参していない約2割の生徒を「ほぼ毎日持参しているが、何らかの理由により持参しなかった生徒」と、「ほとんど毎日、弁当を持参していない生徒」に分けると、ほぼ1：1くらいの割合と考えられる。
- ・昼食に家庭からの弁当を食べたいと考えている生徒は6割程度である。
- ・家庭からの弁当を持参していない理由としては、「弁当が用意されていない」が多く、3割程度を占め、その他、「昼食弁当が好き」「朝が早い」などである。

②毎日の昼食の方法（「家庭弁当」、「昼食弁当」、「校外の店」、「購買部等」）が、ほぼ同じ生徒の状況

- ・約3／4の生徒は昼食の方法がほぼ同じ。
- ・少数だが、家庭からの弁当を持参せず、他の方法によっている生徒がいる。

③家庭からの弁当を持参しない場合の代替の傾向

- ・試行校では、弁当持参が少ない生徒の方が、昼食弁当の利用傾向が高い。
- ・ランチサポート校については、3校で利用傾向が異なっている。
- ・5校計では、「ほぼ毎日弁当を持参している」生徒は、弁当のない日は校外店の利用が一番多く、「弁当持参が少ない」生徒の方が昼食弁当の利用傾向が高い。

(2) 昼食事業の試行

① 昼食事業の試行の状況と調査結果

・開始時期	平成12年1月
・事業内容	メニュー：A弁当(前日予約)栄養価に配慮したご飯とおかず形式の弁当 C弁当(当日予約)カレー、井とみそ汁、ラーメンとご飯ものなどを温かく提供 価 格：300円(A弁当は、1カ月単位の事前申込みの場合270円) 施設設備：配膳室、厨房機器等を整備 業務委託：弁当配送業務等を業者に委託
・利用率	16・17年度は10.1%、18年度(4～12月)9.9%で約1割 昼食弁当を購入したことがある生徒は約7割

<利用状況について>

- ・A弁当、C弁当の販売比率は、C弁当が(18年度4～12月の販売実績)91.0%で購入の9割を占めているが、当日予約、温かさ、生徒の嗜好などが理由と考えられる。
- ・家庭弁当よりも利用回数が多い生徒があり、メニューへの配慮が必要である。

<昼食弁当の生徒・保護者の評価>

(生徒)

- ・販売方法、価格、味、量の各要素を平均すると、約75%の満足を得ており、生徒からは好評である。

(保護者)

- ・家庭から弁当を持参できない場合の昼食の方法として、約67%の保護者が昼食弁当を選択しており、家庭弁当がない場合の昼食としての期待は、生徒よりも高い。

② 昼食事業の試行の評価

- ・試行校での弁当持参率は、全市平均と比較しても、ほぼ同水準であり、試行校では校外店の利用が少ないことなどを考慮すると、試行実施による家庭からの弁当の持参への影響は、補完という役割の範囲内であると考えられる。
- ・利用率は17年度は10.1%で、弁当を持参していない生徒の半分程度が利用していること、購入したことのある生徒は約7割あることから、1つの選択肢として効果はあがっている。
- ・本来の趣旨である栄養バランスに配慮した弁当の利用率が低く、当日予約のメニューが9割を占めること、全市展開するには、初年度の施設設備整備経費やランニングコストなどの公費負担が大きいなどの課題がある。

(3) ランチサポート

昼食事業の試行と、費用対効果がより優れた他の選択肢との比較検証を行うため、新たな選択肢として、昼食弁当の水準や安全面にも配慮した、公費をかけない校内における昼食弁当販売を3校において、学校ごとに異なる業態で実施している。

＊ランチサポート事業を実施している3校（ランチサポート校）を事業開始順に「L1中」「L2中」「L3中」と称している。

①ランチサポート校別の状況・調査結果

(L1中学校)

- ・開始時期 平成18年9月11日
- ・事業内容 持ち帰り弁当業者が、当日予約で販売。
メニュー：固定メニュー4種類
日替わりメニュー4～5種類
価 格：310円～540円
- ・利 用 率 10.7%（9～12月）1日平均37.5食を販売

- ・「これまでに一度でも利用したことのある」生徒は72.0%。その評価として、味が「おいしい」は9割以上、予約方法は「今のままでよい」が9割近く、量が「ちょうど良い」が約6割、価格が「ちょうど良い」は約6割だが、「高い」も3割ある。
- ・家から弁当を持参できない場合の望ましい昼食は、「校内での昼食弁当」が75.3%（保護者）。
- ・利用家庭は、これからも「利用させる」84.3%。
利用させる理由は、「弁当持参できないときに便利」81.3%。
- ・これからも「利用させる」保護者の要望（自由記述）は、半数が「栄養バランス」。

(L2中学校)

- ・開始時期 平成18年9月14日
- ・事業内容 弁当調理販売業者が、前日予約で販売。
(平成18年12月から日替わり弁当の当日販売も可とした。)
メニュー：日替わり弁当1種類
アラカルト弁当5種類
価 格：350円
- ・利 用 率 1.4%（9～12月）1日平均7.9食を販売

- ・「これまでに一度でも利用したことのある生徒」は22.7%。その評価として、味が「おいしい」は約6割、予約方法は「今のままでよい」が約5割、量が「ちょうど良い」が約5割、価格が「ちょうど良い」が約5割だが、「高い」も約3割ある。
- ・家から弁当を持参できない場合の望ましい昼食は、「校内での昼食弁当」が42.9%。
- ・利用家庭の場合、これからも「利用させる」46.7%。
- ・利用させる理由は、「弁当持参できないときに便利」79.9%。
- ・これからも「利用させる」保護者の要望（自由記述）は、「当日購入したい」「メニューを増やす」「量の調節」など。

(L3 中学校)

- ・開始時期 平成 18 年 11 月 27 日
- ・事業内容 弁当販売業者が、前々日予約で弁当を仕入れて販売。
(従来から当該校でパン、おにぎりを販売している。)
 - メニュー：固定メニュー 5 種類
 - 価 格：295 円～395 円
- ・利 用 率 0.2% (11～12 月) 1 日平均 0.6 食を販売

- ・「これまでに一度でも利用したことのある生徒」は 4.3%。その評価として、味が「おいしい」は約 5 割、予約方法は「今のままでよい」が約 5 割、量が「ちょうど良い」が約 3 割、価格が「高い」が約 5 割。
- ・家から弁当を持参できない場合の望ましい昼食は「校内での昼食弁当」が 37.8% (保護者)。
- ・利用家庭の場合、これからも「利用させる」57.1%。
利用させる理由として、「弁当持参できないときに便利」100%。

② ランチサポートの評価

- ・ランチサポート事業は、3つの方式で実施しているが、各方式により利用状況などに大きな違いがある。
- ・「持ち帰り弁当業者」による実施では、利用率などが試行校とほぼ同じであるなど、家庭からの弁当を持参していない生徒対策として、1つの選択肢として効果をあげている。
- ・ランチサポート事業全体として、予約方法、献立内容・温度、価格、学校選択や業者の確保などが、課題である。
また、利用率の向上には、予約などの手続きの簡素化が望ましい一方、家庭弁当よりも利用回数が多い生徒があり、メニューへの配慮が必要である。

(保護者の評価)

- ・「子どもが購入したことのある保護者」のこれからの利用傾向は、3校で数字は異なるが、子どもよりも高く、「利用させない」はほとんどない。
- ・利用させる理由は、「弁当持参できないときに便利」が 81.5%。
- ・価格は、「ちょうど良い」が 78.1%。
- ・保護者の弁当の代替への期待がうかがえる。

(4) その他

① 家庭弁当

- ・弁当を作る時に気を使うことの要素、上位三つは「栄養のバランス」、「おいしさ」、「安全」次いで、「量」が多い。
- ・家庭弁当の平均像として、費用は、200～300 円（45.2%）を中心として、300 円未満では 62.7%。
作る時間は、20～40 分（62.4%）で、40 分未満がほとんどである。
作る人は、母親（93.4%）が圧倒的に多く、次いで本人が作っている、という結果であった。
- ・弁当を作ることができない場合の主な理由について、回答のあったのは約 9 割であり、「体調不良」35.1%、「時間がない」26.9%、「食材がない」9.7%、「作ることができないときはほとんどない」5.4%など。
- ・保護者の感じる弁当持参の意義については、回答のあったのは全体の約 7 割であり、「愛情、子どもとのコミュニケーションなど」39.6%、「手作り、栄養バランス等に気をつけられるなど」12.6%、「子どもの好みや体調に合わせられるなど」4.9%、その他「感謝の心」「意義は感じない」等であった。

② 昼食への意識

- ・弁当持参できない場合の望ましい昼食とその価格については、「弁当販売」を選択した保護者が試行校 66.6%、ランチサポート校 50.7%。
- ・昼食の価格は、試行校では、ランチサポート校に比べ、低価格志向で、400 円未満が 8 割を超えている。校内で 300 円の弁当販売をしている影響と考えられる。
全市的には、校外で購入する場合は、400 円程度と考えられる。
- ・昼食に望む要素、上位三つは「栄養バランス」、「安全」、「おいしさ」次いで、「安い値段」、「複数のメニュー」が多い。

③ 昼食に関する意見（自由記述）

（生徒）

回答のあったのは約 1 割であり、約半数が「昼食弁当に関する要望など」であり、その他、「食堂、売店を作って欲しい」「昼食場所等学校に対する希望」「給食実施」など。

（保護者）

回答のあったのは約 3 割であり、「手作りの食事は親の責任」「3 食バランスよく」「安全な食材を選ぶ」などの食に関する意見や、「給食を要望」、「昼食弁当販売や食堂・売店の要望」、「弁当作りの悩みや要望」その他であった。

大阪市地対財特法期限後の事業等の調査・監理委員会

ま と め

平成 18 年 8 月 31 日

学校における職員配置について（給食調理員）

（現 状）

学校の給食調理員については、各校の食数に応じて配置をしてきたところであるが、いわゆる旧同和教育推進校等においては、食数による配置及び給食施設や設備に対応するための配置以外に、他の学校との献立内容等の違いにより必要な要員を配置してきた。

行財政改革計画が策定された平成13年3月以降、そのような学校においては、食数による配置及び給食施設や設備に対応するための配置を基本とし、配置基準を超える132名のうち、これまでに78名の削減を行った。（平成18年5月1日現在）

また、本市の中学校においては、中学生の昼食は家庭からの弁当持参を基本としているが、いわゆる旧同和教育推進校を中心とした12校では、それぞれの実施地域における当時の食生活の実態などから個別に給食を実施し、給食調理員を配置してきた。

一方、給食を実施していない117校においては、弁当を持参してこない生徒が約2割おり、その対策が求められていることから、現在、2校において昼食事業の試行（業者弁当の販売）を実施し、検証を行っている。

また、18年度においては、公費をかけずに弁当販売を行う新たな方式について実施の準備を進めている。

中学生の昼食のあり方については、「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」において総合的に議論し、研究している。

（今後のあり方）

いわゆる旧同和教育推進校における給食調理員の配置については、今日、他の学校と異なる取り扱いを行う必要性は認められないので、全市基準に沿って、平成19年度末までに配置を見直すべきである。

なお、リフト設置の学校、食堂を有する学校における施設・設備等に対応するため、1名～4名の給食調理員を配置するという現行の基準は過大であるので、その必要性を精査し、今年度中に基準の見直しを行い、速やかに配置の適正化を図るべきである。

また、中学校における昼食は、家庭とのつながり、食教育、費用対効果などに関わる重要な課題であり、本委員会としては、その重要性ゆえ短期間の議論で、あるべき具体的方策を示すことは困難である。

教育委員会事務局に設置している「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」において、昼食事業の試行を実施している2校の利用状況や、18年度より、公費をかけずに行う新たな弁当販売の方式について、それぞれの状況等を検証のうえ総合的に議論し、12校での給食のあり方を含め、今年度末を目途に、保護者負担の公平性はもとより教育的効果の観点から、昼食の考え方を明らかにすべきである。

地対財特法期限後の関連事業等の総点検調査結果に
基づく事業等の見直し等について （方 針）

大 阪 市

平成18年11月29日

2 政策的な課題の解消について

(1) 学校における職員配置の適正化

給食調理員

いわゆる旧同和教育推進校における給食調理員については、全市的基準を超える54名について、平成19年度末までに配置を見直す。また、リフト配置の学校、食堂を有する学校における施設・設備等に対応するための加配42名については、廃止や嘱託化など、平成18年度中に配置基準の見直しを行い、平成21年度末までに配置の適正化を図る。

これらのことと並行して、引き続き給食調理員の総数の縮減に努めていく。

なお、中学生の昼食については、今後、中学生の昼食事業の試行を実施している2校と、今年度から新たに設ける公費をかけない弁当販売校について、それぞれの状況等の精査・検証を加えながら、12月中に中間集約を行うとともに、関係校のヒヤリング調査なども実施し、教育委員会事務局に設置している「小・中学生の健やかな成長の促進のための昼食のあり方に関する研究会」において、保護者負担の公平性はもとより教育的効果の観点から精力的に検討を行うなど、総合的に議論を行い、議会での意見を踏まえて、12校での給食のあり方を含め、平成18年度末までに昼食の考え方をまとめる。